

# 令和4年度 指定管理者モニタリング年度評価シート

[山形市菅沢デイサービスセンター]

施設概要			
施設名(所在地)	山形市菅沢デイサービスセンター (山形市すげさわの丘46番地)		
施設目的	入浴、食事などの日常生活上の支援や、機能訓練などの生活行為向上の支援を図るための各種サービスを通じていただいた利用者に提供する介護施設。		
指定管理者(選定方法)	社会福祉法人 山形市社会福祉事業団(選定方法:非公募)		
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
指定管理者が行う業務	1 介護保険法に規定する通所介護、認知症対応型通所介護、第一号通所事業及び介護予防認知症対応型通所介護に関する事 2 老人福祉法における措置に係る者を通所させること 3 利用者の安全確保に関する事 4 地域との交流事業に関する事 等		
利用料金制導入の有無	有		
施設所管課	福祉推進部長寿支援課		
評価区分	評価項目	評価ポイント	評価
管理運営の状況	人員配置	人員配置は過不足なく適切に行われたか	A
	有資格者の配置	必要な有資格者の配置は適切に行われたか	A
	資質向上	職員の資質向上を図る取り組みは適切に行われたか	A
	受付・接客	接客向上を図る取り組みは適切に行われたか	A
	平等利用	特定の利用者を有利または不利に扱うことなく、取り扱いが適切に行われたか	A
	利用者サービス向上	利用者サービス向上を図る取り組みは適切に行われたか	A
	広報	利用者への広報は情報提供として適切に行われたか	A
	備品・建物等の管理	備品・建物等の財産の管理は適切に行われたか	A
	安全対策	利用者の安全確保の取り組みは適切に行われたか	A
	危機管理	緊急時に備えての研修・訓練等は適切に行われたか	A
	事故・苦情の対応	事故・苦情に対する対応は適切に行われたか	A
	利用の状況	開館日数	開館(日数)は適切に行われたか
開館時間		開館(時間)は適切に行われたか	A
利用人数		利用人数は目標を達成したか	B
平均稼働率		平均稼働率は目標を達成したか	B
事業実施の状況	実施回数	実施回数は目標を達成したか	B
	参加者数	参加者数は目標を達成したか	B
	事業内容	事業の内容は施設の設置目的にあう適切なものであったか	A
満足度の調査	利用者満足度の把握	アンケート等を実施して利用者満足度の把握は適切に行われたか	A
	利用者満足度向上	アンケート結果等により利用者満足度向上を図る取り組みは適切に行われたか	A
維持管理の状況	清掃(日常)	業務は計画どおり適切に行われたか	A
	清掃(定期)	業務は計画どおり適切に行われたか	A
	保守点検(日常)	業務は計画どおり適切に行われたか	A
	保守点検(定期)	業務は計画どおり適切に行われたか	A
	保安警備	業務は計画どおり適切に行われたか	A
	修繕等維持管理	修繕等は適切に行われたか	A
収支の状況	利用料金	利用料金は目標を達成したか	B
	利用料金の收受	利用料金の收受は規定の料金を適正に收受するなど適切に行われたか	A
	利用料金の減免	減免の申請手続がなされた場合、処理は適切に行われたか	A
	経費の縮減	経費縮減についての取り組みは適切に行われたか	A
	収入の増加	収入増加についての取り組みは適切に行われたか	B

## 成果のあった主な取り組み

- 介護職員のうち介護福祉士を70%配置し専門的なケアを提供できた事で、利用者満足度調査の職員対応状況の項目やサービス全般の項目で高い評価を得た。
- 新型コロナウイルスの影響により居宅への訪問ができないこともあったが、電話による情報交換を強化し、空き情報をホームページに掲載する等の情報提供を実施し、通常型で27名の新規利用者を受け、認知症型においては3名の新規利用があった。
- 認知症型においては少人数を活かし、その方の症状に合わせて創作活動やトランプといったレクを取り入れ寄り添ったケアを行うと共に、変化の状況を担当ケアマネにより詳しく伝える事ができた。
- 新型コロナウイルス感染防止のため野外活動の一部を中止せざるを得なかったが、一部の野外活動については感染対策を施したうえで実施した。
- 野外活動への参加を控える利用者がいたものの、参加した方からは出掛けるのは気分が良いと反応があった。
- 利用者の嗜好を大切にしながら季節の行事食を折り混ぜ、野外活動においても季節感のある活動を提供し満足感が得られるよう努めた。
- 家族を招いての芋煮会は実施できなかったが、薪を燃やしての芋煮は好評を得た。
- ノロウイルスや新型コロナウイルス等の感染拡大を防止するために、消毒や換気を徹底して実施した。
- 安心して利用できる環境を整備するため、建物や機器設備の適切な管理に努めた。
- 職員一人一人が財務状況の厳しさの情報を把握し、稼働率の向上と収入の増加に努め、支出の節減を図った。

## 主な課題や今後の対応

- 今後も介護職全体が有資格者となれるよう取り組んでいく。
- 認知症型の令和4年度の平均稼働率は17.1%と令和3年度より更に低下し、収支の改善が依然として厳しい状況にある。
- 近隣のコミセンや居宅へのパンフレット配布等を継続し、通常型利用で認知症状があり、より手厚いケアが必要な方の認知症型への移行をスムーズに行えるよう努めていきたい。
- 認知症型について、内部留保金が少額になってきており、市担当課との協議が必要である。
- 通常型について、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、稼働率の更なる低下を招く結果となった。
- 新規利用者を27名受け入れたが、死亡・施設入所等といった退会者が26名いたため、今後もスムーズに欠員を埋める事ができるようなケアマネとの信頼関係の強化に努めていきたい。
- 新型コロナウイルス感染防止に努めながら、季節を感じられるものに関しては見頃に合わせて実施し、出前寿司のような代替案を柔軟に取り入れ実施していく。
- 総合事業単独野外活動において、利用者に計画の段階から加わって頂き、希望に添った野外活動になるよう努め、計画通り年2回実施できるよう今後も企画していく。
- 今後も感染症の防止、衛生面に気をつけ、利用者の健康管理に留意しサービスを提供できるように努める。
- 収入の増加を図ることが厳しい状況だが、建物各所や機器設備の修繕や更新を山形市と協議しながら検討していく。
- 他の地域包括支援センターや居宅介護支援事業所へ利用者の空き情報を提供し、新規利用者の増加を図ることで、稼働率と収入の増加につなげ財政状況を好転させる。

## 評価コメント

(管理運営の状況について)

介護職員全員が介護福祉士の有資格者となれるよう取り組んでおり、結果、専門的なケアの実施に繋がっている。利用者満足度調査の職員対応状況やサービス全般の項目においても評価が高い。

(利用の状況について)

空き情報をホームページに掲載したり、いきいきサロン利用者へPR活動や体験利用の受け入れを行うなど、利用者確保に向けた努力が伺える。

(事業実施の状況)

季節に応じた事業の実施や、利用者が計画の段階から加わっての企画の立案など、利用者ニーズを積極的に事業に反映している。

質の高いケアの提供に努めるとともに、利用者及びその家族と職員との継続的な信頼関係に基づく施設運営を今後も期待する。